

単元	1 みんなで はなそう (『はるが きた』)			4月(2時間…C2)
目標	互いの話に関心をもって気付いたことや想像したことを話すことができる。			
議題	読み聞かせを聞いたり、絵本を見たりして、想像したことを聞き合う活動(イ)			
評価規準	(①知・技)言葉には、事物の内容を表す働きがあることに気付いている。((1)ア) (②思・判・表)「話すこと・聞くこと」において、互いの話に関心をもっている。(A(1)オ) (③主体的態度)進んで友達の話に関心をもち、これまでの経験をいかして話したり応答したりしようとしている。			
過程	モジュール	学習活動	指導上の留意点	評価項目<評価方法(観点)>※太字は「記録に残す評価」
つかむ	1	○『はるが きた』の範読を聞いたり、教科書の絵を見たりしながら気付いたことを発表し合い、学習課題をつかむ。 学習課題 絵を見て思ったことをみんなに話そう	○『はるが きた』の文章で使われている言葉と絵を結び付けながら、想像のきっかけをつかめるように、教師の範読に続けて音読し、絵の「せかい」に描かれた出来事や事物を見つけて話す用の拡大絵を用意する。	◇『はるが きた』の絵に描かれている出来事や事物を見付け、先生や友達に伝えている。 <発言③>
ふかめる	4	○『はるが きた』の絵を見て、想像したことを伝えたり、絵の中の人物になりきって話したりする。	○絵の中から出来事や事物を見つけ、登場人物の行動や会話を想像できるよう、『はるが きた』を拡大絵にして、黒板に提示する。	◇見つけた出来事や事物を基に、登場人物の行動や会話を想像して、発言したり動作化したりしている。 <発言・行動①②③>
ふりかえる	1	○『はるが きた』の絵を見ながら楽しく想像できたことを振り返る。	○楽しく想像できた場面を具体的に想起できるよう、見開きページを一覧化したプリントと色囲み用のクーピーをペアで一セットずつ用意する。	◇楽しく想像できた場面について、想像に使った出来事や事物をクーピーで囲いながら、登場人物の行動や会話について発言している。 <発言③>
【備考】 ○本単元はスタートカリキュラムに位置付け、モジュール学習を行う。時間は、1モジュール15分×6で2時間扱いとする。 ○次の単元「おきにいのほんを みつけよう」につながるよう、物語への興味・関心を高める指導が「ふりかえる」過程でできるとよい。				

単元	2 おきにいのほんを みつけよう (『おはなし ききたいな』)			4月(2時間…C2)
目標	絵本の読み聞かせを、想像を広げながら楽しむことができる。			
議題	読み聞かせを聞き、感想を伝え合う活動(イ)			
評価規準	(①知・技)読書に親しみ、いろいろな本があること知っている。((3)エ) (②思・判・表)「読むこと」において、文章の内容と自分の体験とを結び付けて、感想をもっている。(C(1)オ) (③主体的態度)積極的にいろいろな本を手に取り、これまでの経験を生かして、読み聞かせを楽しもうとしている。			
○教科書に例示された絵本の読み聞かせを聞く。 ○教科書に例示された以外の本の読み聞かせを聞く ○読み聞かせから自分の経験を想起し、感想を発表する。				
【備考】 ○本単元はスタートカリキュラムに位置付け、モジュール学習を行う。時間は、1モジュール15分×6で2時間扱いとする。 ○学校司書と連絡を取り合い、教科書に例示された絵本を学年のフロアに用意する。 ○図書室の利用は、学活「たのしい図書室」終了後に実施するようにする。(R04は、5月上旬に図書室の利用を開始した。)				

単元	3 かいたり よんだり してみよう (『かくこと たのしいな』『うたに あわせて あいうえお』)	4月(10時間…知・技10)
目標	姿勢や鉛筆の持ち方を正しくして書いたり、口形や発声、発音に気を付けながら、声の大きさを工夫して音読したりすることができる。	
評価規準	(①知・技)姿勢や筆記具の持ち方を正しくして書いている。((3)ウ)姿勢や口形、発声や発音に注意して話している。((1)イ) (③主体的態度)積極的に絵を見て正しい姿勢や鉛筆の持ち方、口の開け方等に気を付け、学習の基礎に関わる課題の解決に向けて、文字を書いたり音読したりしようとしている。	
<p>○教科書P.14の鉛筆の持ち方を歌にして暗唱させ、書く際は常に正しい持ち方を意識できるよう指導する。</p> <p>○教科書P.14～P.15のなぞり書きを行う他、なぞり書き用のプリント(「H30_運筆練習」のファイル)がカリ管に保管してあるので活用するとよい。</p> <p>○「あいうえお」の口の開け方に気を付けたり、行頭の言葉を強調させたりして、教材文を繰り返し音読する。</p> <p>○平仮名を書けるよう指導する。(「あいうえお」「かきくけこ」「さしすせそ」「たちつてと」「なにぬねの」等50音全て。但し、50音順ではなく「つ・く・し・い・り」など、画数の少ないものや形の似ているものから取り組んでもよい。R04は平仮名スキルで学習を進めた。)</p>		
<p>【備考】</p> <p>○書写の学習と並行して進められるよう、書写の時間の指導者と連携して指導する。</p>		

単元	4 じこしょうかいを しょう (『どうぞ よろしく』)	4月(4時間…A4)		
目標	友達に知らせたいことを考えて、自己紹介をすることができる。			
話し動	自己紹介をし合う活動(ア)			
評価規準	(①知・技)自分の名前や好きなこと等を平仮名を用いて書いている。((1)ウ) (②思・判・表)「話すこと・聞くこと」において、声の大きさに注意して、自己紹介をしている。(A(1)ウ) (③主体的態度)友達に知らせたいことを進んで考え、相手に応じた声の大きさと話すことに関わる課題の解決に向けて、自己紹介をしようとしている。			
過程	時間	学習活動	指導上の留意点	評価項目<評価方法(観点)> ※太字は「記録に残す評価」
つかむ	1	<p>○『あつまって はなそう』のように、好きなものが同じ友達と集まって話し合ったり、教師の自己紹介のモデルを見たりして、学習課題をつかむ。</p> <p>学習課題 自己紹介をして、友達をたくさん作ろう</p>	○これまでの自己紹介の仕方を想起できるよう、自己紹介の経験について話し合う活動を設定する。	◇自己紹介の内容や方法について、自分の経験を基に話している。 <発言③>
ふかめる・ふりかえる	1	○自分の自己紹介の内容を決める。	○友達に知らせたいことを決められるよう、「名前」「好きなことや得意なこと」という自己紹介カードの書き方の例を提示する。	◇自分の好きなことや得意なことを進んで自己紹介カードに書いている。 <カード①>
	1	○「声のものさし」を見ながら、その場にふさわしい声の大きさについて話し合う。	○適切な声の大きさと自己紹介をできるように、「声のものさし」の挿絵を基に、表されている場面やそのときの声の大きさを具体的な絵で提示する。	◇その場にあった声の大きさについて発言している。 <発言②>
	1	○自己紹介をする。	○楽しみながら、たくさんの友達と自己紹介をできるように、学級内を自由に歩き回り、出会った友だちと自己紹介をし合う時間を十分に確保する。	◇適切な声の大きさと自己紹介をしている。 <発言②>
<p>【備考】</p> <p>○生活科「ともだちになろう」でお誕生列車のカードを作成し、カードを用いて自己紹介をし合う活動時間と重ねて、自己紹介をする時間を十分に確保する。</p> <p>○自己紹介のための学習プリントを複数用意し、自己紹介した相手と交換できるようにしてもよい。その際、平仮名の習熟が十分でない子どももいることから、言葉だけでなく絵を描かせるとよい。</p> <p>○「ともに わかろう」の「こえのものさし」の掲示物を活用していく。</p>				

単元	5 がっこうたんけんを しよう (『なんて いおうかな』『こんな もの みつけたよ』)	4月(2時間…A2)
目標	丁寧な言葉を用いながら、身近な人と会話をしたり、学校探検で見つけたものを紹介したりすることができる。	
議題	学校探検で見つけたものを紹介する活動(ア)	
評価 規準	(①知・技)丁寧な言葉と普通の言葉との違いに気を付けて使っている。((1)キ) (②思・判・表)「話すこと・聞くこと」において、学校探検の中で見たことや聞いたことから話題を決め、紹介するために必要な事柄を選んでいる。(A(1)ア) (③主体的態度)学校探検での経験を基に友達に知らせたいことを進んで考え、学習課題の解決に向けて、学校探検で見つけたものを紹介しようとしている。	
	○『なんていおうかな』を見て、学校生活の様々な場面や校内で出会う相手に応じた会話の仕方を考え、やってみる。 ○生活科「がっこうたんけんをしよう」で見つけたものを紹介し合う。	
	【備考】 ○生活科と関連した指導を行う。生活科「がっこうたんけんをしよう」の学校探検で見つけたものを紹介する活動を通して、国語科「学校探検の中で見たことや聞いたことから話題を決め、紹介するために必要な事柄を選ぶこと」を指導する。	

単元	6 ことばを たのしもう (『うたに あわせて あいうえお』『ことばを さがそう』)	4月(2時間…知・技 C1)
目標	リズムや繰り返しに気を付けて音読したり、音数を増やしながら言葉集めをしたりすることができる。	
議題	『あいうえおのうた』を音読する等して、言語文化に親しむ活動(イ)	
評価 規準	(①知・技)長く親しまれている言葉遊びを通して、言葉の豊かさに気づいている。((3)イ) (③主体的態度)進んで姿勢や口形、発声や発音に注意し、学習課題に沿って音読しようとしている。	
	○音数や繰り返し出てくる語に着目しながら、『あいうえおのうた』を音読する。 ○「あ」「い」「う」「か」等の平仮名を語頭にした言葉を発表し合い、手拍子をしながら声に出したり、見つけた言葉をノートに書いたりする。	
	【備考】 ○音読の際は「あいうえお」の口の開け方を意識するよう繰り返し指導する。 ○1文字ごとに手拍子をしたり、音と文字とを対応させながら音読したりして、1音節1文字であることに気付けるようにする。 ○言葉集めをする際は音数を指定したり、徐々に音数を増やしたりして、語句の拡充を図れるとよい。 ○言葉集めは単元3「かいたり よんだり してみよう」の学習の中で行ってもよい。 ○平仮名を書けるようになる時期(5月)に実施してもよい。	

単元	7 こえに だして よもう	5月(1時間…C1)
目標	語のまとまりごとに意味を考えながら、音読することができる。	
議題	詩『あさの おひさま』を音読する活動(イ)	
評価 規準	(①知・技)語のまとまりや言葉の響き等に気を付けて音読している。((1)ク) (②思・判・表)「読むこと」において、場面の様子等、内容の大体を捉えている。(C(1)イ) (③主体的態度)積極的に詩の内容を捉え、これまでの学習を生かして音読を楽しもうとしている。	
	○叙述や挿絵を基に、場面の様子を思い浮かべながら『あさの おひさま』を読む。	

単元	8 あさがおかあどを かこう (『おおきく なった』)		5・6・7月 (6時間…B6)
目標	観察したことの中から伝えたいことを見付け、絵や短い文で書くことができる。		
活動	観察したことを記録する活動 (ア)		
評価 規準	(①知・技)平仮名を正しく書いている。(1)ウ) (②思・判・表)「書くこと」において、アサガオの成長の様子を観察して、見付けたことや気付いたことを絵と言葉や文で表している。(B(1)ア) (③主体的態度)積極的にアサガオの成長に興味をもち、観察したことを書き記すことに関わる課題の解決に向けて、友達に伝えることを見付けようとしている。		
過程	時間	学習活動	指導上の留意点
つかむ	1	○自分のアサガオの成長について話し合ったり、観察文を見て気付いたことを発表し合ったりして、学習課題をつかむ。 学習課題 アサガオのことを絵や言葉で伝えよう	○観察の際の観点到に気付けるよう、アサガオの写真や資料とともに、観察文のモデルを提示する。
ふかふめりるか・える	5	○生活科の時間に観察したアサガオの様子が伝わるように、絵や文で記録を書く。 ・たねまき ・発芽 ・双葉 ・本葉 ・つる	○アサガオの様子に気付いたり、自分の感想をもったりすることができるよう、「色・形・大きさ・高さ・太さ・重さ・触った感じ・におい・数」等の具体的な視点を提示する。
【備考】 ○生活科と関連した指導を行う。生活科「たねまきをしよう」「おおきくなあれ」で自分が育てているアサガオについて継続的な観察し、国語科の時間に「観察したことの中から伝えたいことを見付け、絵や短い文で書くことができる」よう指導する。そのため、生活科の時間に「あさがおかあど」を書く際に、具体的な視点を提示する。(視点は徐々に増やしていくとよい。) ○書いた「あさがおかあど」は、教室内に掲示したり、生活ファイルに綴じたりして、記録を蓄積できるようにする。			

評価項目<評価方法(観点)>※太字は「記録に残す評価」

◇観察文のモデルについて、題材や表し方に着目して気付いたことを発言している。<発言③>

◇色や大きさ、自分の思いなど、見付けたものの様子と感想を記述している。<学習プリント①②③>

単元	9 おはなしの しょうかい ききたいな (『よく きいて、はなそう』『はなの みち』『としょかんへ いこう』)		5月 (7時間…A2・C5)
目標	場面の様子や登場人物の行動を手掛かりに、出来事や結末を捉えながら物語を読み、感じたことを教師や友達に伝えることができる。		
議題	物語『はなの みち』を読み、感じたことを紹介する活動 (A(2)ア) (C(2)イ)		
評価 規準	(①知・技)物語のおもしろさを感じ、読書に親しんでいる。(3)エ) (②思・判・表)「話すこと・聞くこと」において、物語を読む中でおもしろかった場面を友達に紹介している。(A(1)ア) 「読むこと」において、場面の様子や登場人物の行動を手がかりに、出来事や結末を捉えている。(C(1)エ) (③主体的態度)積極的に物語のおもしろかった場面を見つけ、それを伝えることに関わる課題の解決に向けて、物語を読もうとしている。		
過程	時間	学習活動	指導上の留意点
つかむ	1	○『はなの みち』の読み聞かせを聞き、気付いたことや不思議に思ったことを話し合い、学習課題をつかむ。 学習課題 お話のおもしろかった場面を紹介しよう	○物語を場面で捉えることができるよう、4つの挿絵を黒板上に提示する。
ふかめる	4	○『はなの みち』を場面ごとに読み、出来事や登場人物の行動を話し合う。 ・P.30～31を読み、出来事や登場人物の行動を話し合う。 ・P.32～33を読み、出来事や登場人物の行動を話し合う。 ・P.34～35を読み、出来事や登場人物の行動を話し合う。 ・P.36～37を読み、出来事や登場人物の行動を話し合う。	○おもしろいところや不思議なところを見付けることができるよう、「くまさんが話していること」「くまさんがしていること」という視点を提示する。
ふりかえる	1	○楽しく読んだ場面を紹介し合う。	○紹介したい場面とその理由を考えられるよう、気に入った場面のページを開きながら、叙述や挿絵を指し示して友達に紹介する教師のモデルを提示する。
	1	○他の物語を楽しく読む。	○自分がおもしろいと感じる物語に出会うことができるよう、学校司書と連携し、1年生が読めそうな物語を提示する。
【備考】 ○「ふりかえる」過程の2時間目は学活「たのしい図書室」と合科的に指導してもよい。 ○音読の時間を十分に確保するとともに、家庭学習で「本読みカード」を開始するとよい。			

評価項目<評価方法(観点)>※太字は「記録に残す評価」

◇挿絵や叙述に着目して、気付いたことや不思議に思ったことを発言している。 <発言①>

◇叙述や挿絵を基に、場面の様子について想像したことを発言している。 <発言②>

◇叙述や挿絵を指し示して気に入った場面を教師や友達に紹介している。 <発言①>

◇様々な物語を読んだり、自分がおもしろいと感じる物語を教師や友達に伝えたりしている。 <発言③>

〈言葉の学習〉(『かきと かぎ』)		5月(2時間…知・技2)
目標	濁音を含む言葉を見つけ、文字で書き表すことができる。	
評価 規準	(①知・技)平仮名を読んだり、書いたりしている。((1)ウ) (③主体的態度)積極的に濁音を含む言葉集めをし、これまでの学習を生かして文字で書き表そうとしている。	
○教材文を読み、似ている言葉を話し合う。 ○濁点を書く練習をしたり、濁点の付く言葉を集めたりする。		

単元	10 ぶんをつくろう(『ぶんをつくろう』)	5月(4時間…B4)
目標	主語と述語の関係に注意して、「～が～。」という文を書くことができる。	
議題	見たり経験したりしたことの中から感じたことを言葉にして短文で書く活動(ウ)	
評価 規準	(①知・技)句点の打ち方を理解して文の中で使っている。((1)ウ)文の中における主語と述語との関係に気付いている。((1)カ) (②思・判・表)「書くこと」において、語と語との続き方に注意している。(B(1)ウ) (③主体的態度)積極的に語と語との続き方を丁寧に確かめながら、これまでの学習を生かして文を書こうとしている。	
○教科書の例や挿絵を基に、主語と述語との関係を知り、「～が～。」の文を発表し合う。 ○文の終わりには句点が付くことを知り、「～が～。」の文型で文を書く。 ○教科書の例や挿絵を基に、主語と述語との関係や句点に気を付けて文を作る。 ○挿絵や身の回りから、「～が～。」の文型に合うものを見付け、文を書く。		

〈言葉の学習〉(『ねこと ねっこ』)		5月(2時間…知・技2)
目標	促音や半濁音を含む言葉を見つけ、文字で書き表すことができる。	
評価 規準	(①知・技)促音の表記、助詞の「は」の使い方、句読点の打ち方を理解し、文の中で使っている。((1)ウ) (③主体的態度)積極的に促音や半濁音を含む言葉集めをし、これまでの学習を生かして文字で書き表そうとしている。	
○促音の読み方や音節に気を付けて、教材文を読む。 ○教科書の熟語例を基に、促音や半濁音の付く言葉を集める。		

単元	11 くわしく はなそう (『わけを はなそう』)	6月(3時間…A3)
目標	「気持ち」「そのわけ」という簡単な構成を用いて、状況を話すことができる。	
議題	身の回りの出来事の中にある伝えたいことを話す活動(ウ)	
評価 規準	(①知・技)言葉には、事物の内容を表す働きや、経験したことを伝える働きがあることに気付いている。((1)ア) (②思・判・表)「話すこと・聞くこと」において、相手に伝わるように、行動したことや経験したことに基づいて、話す事柄の順番を考えている。(A(1)イ) (③主体的態度)積極的に話す事柄の順序を考えながら、これまでの学習や経験をを生かして、気持ちとそのわけを話そうとしている。	
	○「わたしは～。どうしてかという(なぜかという)、～からです。」の文型を用いて、教科書の挿絵を基に女の子の「気持ち」と「そのわけ」を考え、友達と伝え合う。 ○「いつ」「どこで」「だれと」「なにをした」「どうだった」カードを使って、身の回りの出来事の中で、驚いたことや気付いたこと、嬉しかったことを話し合い、メモにまとめる。 ○メモを基に知らせたいことを決めて、自分の「気持ち」と「そのわけ」を発表する。	
	【備考】 ○「ともに わかろう」の「はっぴょうのしかた」を合わせて指導できるとよい。 ○「いつ」「どこで」「だれと」「なにをした」「どうだった」カードは生活科室のロッカーに保管してあるので、活用するとよい。	

〈言葉の学習〉(『おばさんと おばあさん』)		6月(2時間…知・技2)
目標	長音を含む言葉を見つけ、文字で書き表すことができる。	
評価規準	(①知・技)長音の表記、助詞の「を」の使い方、句読点の打ち方を理解し、文の中で使っている。((1)ウ) (③主体的態度)積極的に長音を含む言葉集めをし、これまでの学習を生かして文字で書き表そうとしている。	
○長音の発音や音節に気を付けて、教材文を読む。 ○教科書の熟語例を基に、長音の言葉を集める。		
【備考】 ○特殊な長音を言葉を覚えるための言葉遊びとして、「とおくの おおきな こおりの うえを おおくの おおかみ とおずつ とおる」などを取り上げてよい。		

単元	12 つぼみずかんを つくろう(『つぼみ』)	6月(8時間…C8)		
目標	「問い」「答え」という事柄の順序を捉えて、『つぼみ』の内容の大体を捉えることができる。			
議題	説明的な文章『つぼみ』や関連する図書を読み、分かったことを説明する活動(ウ)			
評価規準	(①知・技)語のまとまりや言葉の響きなどに気をつけて音読している。((1)ク) (②思・判・表)「読むこと」において、事柄の順序などを考えながら、内容の大体を捉えている。(C(1)ア) (③主体的態度)積極的に説明の順序を捉えながら文章を読み、学習課題に沿ってつぼみ図鑑を作成しようとしている。			
過程	時間	学習活動	指導上の留意点	評価項目<評価方法(観点)>※太字は「記録に残す評価」
つかむ	1	○『つぼみ』を読んで初発の感想を発表し合い、学習課題をつかむ。 学習課題 説明の順序に気を付けて、つぼみ図鑑を作ろう	○つぼみの形や開き方の違いに気付けるよう、つぼみの拡大写真と「見つけた違い」という視点を提示する。	◇つぼみや花について、初めて知ったことや詳しく知りたいこと等を発言している。<発言③>
ふかめる	3	○『つぼみ』を読んで、段落の構成について話し合う。 ・朝顔の花文を読み、段落の組立を話し合う。 ・蓮の花の文を読み、朝顔の花の段落と比べながら、段落の組立の共通点を話し合う。 ・桔梗の花の文を読み、朝顔や桔梗の花の段落と比べながら、段落の組立の共通点を話し合う。	○段落の構成を捉えることができるよう、「つぼみの見た目」「問い」「問いの答え」「開き方」という観点を、4色に色分けして提示する。	◇観点を基に、一つ一つの文を色分けしている。 <学習プリント①②③>
ふりかえる	3 1	○段落の構成を生かして、つぼみ図鑑を作り、読み合う。 ○まとめのテストを行う。	○段落の構成に気を付けながら図鑑を作れるよう、4色に色分けした学習プリントを用意する。	◇段落の構成に気を付けて、図鑑を書いている。 <学習プリント②> ◇6割以上の問題について、正答を出している。 <テスト①②>
【備考】 ○作った図鑑は学級でまとめられるとよい。 ○この単元で、国語の学習用語として「問いの文」「答えの文」を教える。 ○まとめのテストについては、裏面の言葉の学習の授業に応じて、実施の時期を決める。				

単元	13 えにつきを かこう (『こんな ことが あったよ』)		6・7月(8時間…B8)
目標	相手に伝えたいことを探して、文章を書くことができる。		
議題	体験したことや身近な出来事を報告する文章を書く活動(イ)		
評価 規準	(①知・技)助詞や句読点の使い方に注意して、絵日記を書いている。(I)ウ) (②思・判・表)「書くこと」において、体験したことから書くことを見つけ、必要な事柄を集めたり確かめたりして、伝えたいことを明確にしている。(B(I)ア) (③主体的態度)積極的に体験したことを思い出し、絵日記を書くことに関わる課題の解決に向けて、絵日記を読む相手を意識しながら書こうとしている。		
過程	時間	学習活動	指導上の留意点
つかむ	1	○『こんな ことが あったよ』を読んで、絵日記の書き表し方を確かめたり、書きたいことを話し合ったりして、学習課題をつかむ。 学習課題 自分が見つけたものやしたことを絵日記に書こう	○日記に書く内容を考えられるよう、休日の出来事でありそうな絵や学校生活の様子を写した写真を提示する。
	1	○学級の全員が体験したことを絵日記に書く活動を行い、書くときに気を付けることを話し合う。	○共通体験を基に、絵日記の書き方を考えられるよう、全員が体験したこととして、以下のような内容を題材として提示する。 ・行事「リレー大会」 ・生活科「わくわく きゃっぷらんど」
ふかめる・ふりかえる	6	○身近な出来事や経験したことの中から題材を見付け、絵日記を書いたり、書いた絵日記を互いに読み合い、よさを伝え合ったりする。 ※1週間に1回程度で、1ヶ月間継続して取り組んでいく。 (題材例) ・お家の人に、1週間の学校生活の中で楽しかったことを伝える絵日記。 ・友達や先生に、日常生活の中で自分がしたことや見つけたものなどを伝える絵日記。 ・友達や先生に、休日に自分や家族がしたことなどを伝える絵日記。	○絵日記に書く内容を見付けられるよう、学校生活の様子を写した写真を提示する。
【備考】 ○「10 くわしく はなそう (『わけを はなそう』)」の学習と関連させながら、「いつ」「どこで」「だれと」「なにをした」「どうだった」カードを活用するとよい。 ○がんばんノート開始に合わせて行えるとよい。			

評価項目<評価方法(観点)>※太字は「記録に残す評価」

◇教材文に書かれていることや、自分が絵日記に書きたい内容を発言している。 <発言③>

◇絵日記を書くときに気を付けることを発言している。 <発言②>

◇身近な出来事から書く内容を見付け、助詞や句読点の使い方に気を付けながら、絵日記に書いている。 <絵日記①②③>

〈言葉の学習〉(『おもちゃと おもちゃ』)		6月(2時間…知・技2)
目標	拗音を含む言葉を見つけ、文字で書き表すことができる。	
評価 規準	(①知 ・ 技)拗音の表記, 助詞の「へ」の使い方, 句読点の打ち方を理解し, 文の中で使っている。((1)ウ) (③主体的態度)積極的に拗音を含む言葉集めをし, これまでの学習を生かして文字で書き表そうとしている。	
○教材文を読み, 拗音になることで意味が変わる言葉や, 拗音の音節を知る。 ○教科書の熟語例を基に, 言葉を集める。		

〈言葉の学習〉(『あいうえおで あそぼう』)		6月(2時間…知・技2)
目標	言葉遊び歌を楽しむことができる。	
評価 規準	(①知 ・ 技)長く親しまれている言葉遊びを通して, 言葉の豊かさに気付いている。((3)イ) (③主体的態度)積極的に平仮名の五十音を確かめ, これまでの学習を生かして言葉遊びを楽しもうとしている。	
○教材文を, 声の大きさやリズムに気を付けて, 繰り返し音読する。 ○行ごとに, ペアやグループの「あいうえおの うた」を考え, 発表し合う。 ○平仮名の五十音を縦に読んだり, 横に読んだりする。		
【備考】 ○「3 かいたり よんだり してみよう(『うたに あわせて あいうえお』)」の学習を想起させながら, 口形が同じになる平仮名が横並びになっていることに気付かせるとよい。		

単元	14 げきを しよう (『おおきな かぶ』)		6月(6時間…C6)
目標	場面ごとの登場人物の行動の様子を具体的に想像して読むことができる。		
議題	物語『おおきな かぶ』を読み、想像したことを演じる活動(イ)		
評価規準	(①知・技)はっきりとした発音や声の大きさに気を付けて音読している。((1)イ) (②思・判・表)「読むこと」において、場面ごとの登場人物の行動の様子を想像して読んでいる。(C(1)エ) (③主体的態度)積極的に文章を読み、音読劇をすることに関わる課題の解決に向けて、登場人物の行動の様子を想像しながら読もうとしている。		
過程	時間	学習活動	指導上の留意点
つかむ	1	○『おおきな かぶ』を読み、気に入った場面や登場人物について話し合い、学習課題をつかむ。 学習課題 動きを考えて『おおきな かぶ』の劇をしよう	○物語の場面や登場人物に着目できるよう、感想を話し合う際の視点として、「おもしろいと思った人物の行動」や「出来事」を提示する。
ふかめる	3	○場面ごとにおじいさんやおばあさん、動物たちの動きを考えながら、『おおきな かぶ』を演じる。 ※グループごとに役割を決め、動作を入れながら練習をする。 ・おじいさんが種を蒔く～おじいさんとおばあさんでかぶを引っ張る ・まご～犬でかぶを引っ張る ・ねこ～ねずみが加わりかぶが抜ける	○登場人物の行動や人数の変化に着目できるよう、動きや声の重ね方、声の大きさなどについて、互いに見合ったり、聞き合ったりできる場を用意する。
ふりかえる	1 1	○『大きな かぶ』の音読劇発表会を開き、感想を話し合う。 ○まとめのテストを行う。	○登場人物の行動に着目して感想をもてるよう、「動き」「言い方」という観点を提示する。
<p>【備考】</p> <p>○人数が増えていくところでは、声が重なり合っていく楽しさも感じられるように、群読の要素を取り入れられるとよい。</p> <p>○役割に合わせた登場人物カードが生活科室のロッカーに保管してあるので、活用するとよい。</p> <p>○まとめのテストについては、裏面の言葉の学習の授業に応じて、実施の時期を決める。</p>			

〈言葉の学習〉(『はをへを つかおう』)		6月(2時間…知・技2)
目標	助詞「は」「を」「へ」を適切に使って、文を書くことができる。	
評価規準	(①知・技)助詞の「は」「へ」及び「を」の使い方を理解し、文や文章の中で使っている。((1)ウ) (③主体的態度)積極的に助詞の使い方を確かめながら、これまでの学習を生かして文を作ろうとしている。	
<p>○教材文を読み、「わ・お・え」と「は・を・へ」の使い方の違いを知る。</p> <p>○「は・を・へ」を使ったパズルをしたり、文を作ったりする。</p>		

単元	15 「好きなこと はっぴょうかい」を しよう (『好きな こと, なあに』)		7月(6時間…B6)
目標	身近なことや経験したことから自分の好きなこととその理由を考え, 紹介することができる。		
議題	自分の好きなことを話したり感想を伝えたりする活動(ア)		
評価 規準	(①知・技)言葉には, 事物の内容を表す働きや, 経験したことを伝える働きがあることに気づいている。((1)ア) (②思・判・表)「話すこと・聞くこと」において, 身近なことや経験したことなどから話題を決め, 伝え合うために必要な事柄を選んでいる。(A(1)ア) (③主体的態度)粘り強く伝えたいことや表し方を考え, これまでの学習をいかして自分が好きなものとその理由を紹介しようとしている。		
過程	時間	学習活動	指導上の留意点 評価項目<評価方法(観点)>※太字は「記録に残す評価」
つかむ	1	○『好きな こと, なあに』を読んで, 文章の構成を確かめたり, 自分の好きなものを伝え合ったりして, 学習課題をつかむ。 学習課題 自分の好きなことを, 友達に紹介しよう	○伝える内容に対する見通しをもてるよう, 「好きな遊び」「好きな食べ物」等を例示する。 ◇自分の好きなものを発言している。<発言③>
ふかめる・ふりかえる	1 2 2	○学習プリントを用いて, 「好きなこと」と「そのわけ」を書く。 ○画用紙の表に「好きなこと」と名前を書き, 裏に原稿を清書する。 ○「好きなこと はっぴょうかい」を行う。	○「好きなこと」を決めることができるよう, 「遊び」「食べ物」「場所」「勉強」などの観点を提示する。 ○相手意識をもって発表することができるよう, 表に, 大きく「好きなこと」と名前を書き, 裏に原稿を書くことができる学習プリントを用意する。 ○文と文とのつながりに気を付けて発表できるよう, 「好きなこと」「そのわけ」という観点を提示する。 ◇観点に沿って, 自分の好きなことと, そのわけを記述している。<学習プリント②> ◇「 ぼくの(わたしの)好きなことは~です。 」と, 主語と述語とのつながりに気を付けて, 清書している。 <学習プリント①> ◇「好きなこと」の文と「そのわけ」の文とのつながりに気を付けて発表している。<発表・学習プリント②>
【備考】 ○画用紙の大きさは, 裏に学習プリントを貼ることができるよう, 八つ切り半分以上のものがよい。 ○書写の時間と関連させて行うとよい。			

1 学きのまとめテストをしよう		7月(2時間…C1知技1)
目標	1学期に読んだ説明的な文章や文学的な文章で養った思考力や想像力を基に, 順序立てて考える力や感じたり想像したりする力を発揮することができる。	
評価 規準	(②思・判・表)「読むこと」において, 書かれている事柄の順序を考えたり, 登場人物の行動を具体的に想像したりしながら, 話のまとまりなどに気を付けて読んでいる。 (③主体的態度)粘り強く課題に取り組み, 今までの学習を生かして文章を読もうとしている。 (C(1)アイウエ)	
○言葉の学習に関わる課題に取り組む。		

単元	16 おはなしの たのしさを みつけよう (『おむすび ころりん』『としょかんと なかよし』)		7月(9時間…C9)	
目標	場面の様子に着目して登場人物の行動を具体的に想像しながら、昔話を楽しく読むことができる。			
議題	物語『おむすび ころりん』を読み、想像したことを聞き合う活動(イ)			
評価 規準	(①知・技)様子を表す言葉や行動を表す言葉があることに気付き、それらの言葉を想像する際に用いている。((1)オ) (②思・判・表)「読むこと」において、場面の様子に着目しておじいさんの行動を具体的に想像している。(C(1)エ) (③主体的態度)積極的に文章を音読し、具体的に想像することに関わる課題の解決に向けて、昔話を楽しく読もうとしている。			
過程	時間	学習活動	指導上の留意点	
つかむ	1	○『おむすび ころりん』のおおまかな内容を捉え、学習課題をつかむ。 学習課題 おじいさんになりきって、昔話を楽しく読もう	○おじいさんの行動を具体的に想像する本単元の学習に対する期待感を高められるよう、形や大きさの異なる複数のおむすびの模型を用意し、追いかける方を例示する。	◇おじいさんの行動を具体的に想像して物語を読むことへの期待が含まれた発言をしている。 <発言③>
ふかめる	4	○場面ごとに、おじいさんの行動について想像したことを聞き合う。 ・P.84～P.86 L.4「1回目のおむすびがころがる場面」 ・P.86 L.6～P.87「2回目のおむすびがころがる場面」 ・P.88～P.89「おじいさんがねずみの家に落ちる場面」 ・P.90～P.91「おばあさんと幸せに暮らす場面」	○場面の様子に着目しておじいさんの行動を具体的に想像できるよう、ペアの友達と動作化しながら想像したことを伝え合う機会や時間を十分に確保する。	◇様子を表す言葉や行動を表す言葉を根拠に、おじいさんの行動について想像したことを動作化して伝えている。 <動作・発言①②③>
ふりかえる	1 2 1	○単元の学習を振り返り、『おむすび ころりん』を読んで楽しかったことについて話し合う。 ○お気に入りの昔話を選んで、紹介する。 ・気に入った昔話を見付ける。 ・選んだ昔話を伝え合う。 ○まとめのテストを行う。	○動作化しながら具体的に想像を広げて昔話を楽しく読めるように気付けるよう、「楽しくできたこと」という視点を提示する。 ○一人一人がお気に入りの昔話を見付けられるよう、学校司書と連携し、昔話の絵本や1年生が読めそうな本の特設コーナーを設置する。	◇おじいさんの行動を動作化しながら、想像して読むことの楽しさやよさを進んで友達に伝えている。 <発言③> ◇自分が気に入った昔話を見付け、様子を表す言葉や行動を表す言葉を根拠に、想像したことを動作化して伝えている。<動作・発言①②③> ◇6割以上の問題について、正答を出している。 <テスト①②>
【備考】 ○おじいさんの衣装(頭巾と袴纏)が生活教室のロッカーに保管してあるので、登場人物の行動を具体的に想像し、表現する際に活用するとよい。 ○まとめのテストについては、裏面の言葉の学習の授業に応じて、実施の時期を決める。				

〈言葉の学習〉(『ことばを みつけよう』)		7月(2時間…知・技2)
目標	言葉遊びを楽しむことができる。	
評価 規準	(①知・技)身近なことを表す語句の量を増し、語彙を豊かにしている。((1)オ) (③主体的態度)積極的に言葉遊びに取り組み、これまでの学習を生かして自分でも言葉遊びを作成しようとしている。	
○教科書P.102の表の中から言葉を見付け、発表し合う。 ○クロスワードパズルを作って、友達と交流する。		

〈言葉の学習〉(『かたかなを みつけよう』)		7月(2時間…知・技2)
目標	身の回りから片仮名で書く言葉を見つけて読んだり書いたりすることができる。	
評価 規準	(①知 ・ 技)片仮名を読み, 書くとともに, 片仮名の長音, 拗音, 促音, 撥音等の表記を理解して文や文章の中で使っている。((1)ウ) (③主体的態度)積極的に身の回りから片仮名で書く言葉を見つけ, これまでの学習を生かして簡単な文を書こうとしている。	
<input type="checkbox"/> 片仮名での長音や促音, 拗音の書き方を知る。 <input type="checkbox"/> 長音や促音, 拗音を含む片仮名の書き取りをする。		

単元	17 げんきに よもう (『こえを あわせて よもう』)	8月(1時間…知・技1)
目標	語のまとまりや言葉の響きを考えながら、声に出して読むことができる。	
議題	詩『いちねんせいの うた』を音読する活動。(イ)	
評価規準	(①知・技)語のまとまりや言葉の響き等に気を付けて音読している。((1)ク) (③主体的態度)積極的に詩の内容を捉え、これまでの学習を生かして音読を楽しもうとしている。	
○リズムをとったり、声の大きさや読む速さなどを変えたりしながら、繰り返し声に出して読む。		
【備考】 ○語のまとまりを意識できるよう、単語(自立語)に丸印を付けてから音読させるとよい。		

単元	18 みんなに はなそう (『みんなに しらせよう』)	9月(5時間…A5)		
目標	紹介したいことが相手に分かるように、はっきりと話すことができる。			
議題	紹介したいことを大人数の前で話したり、質問や感想を述べたりする活動(ア)			
評価規準	(①知・技)時間、場所、人物、行動、気持ちを表す言葉等、意味による語句のまとまりがあることに気付きながら、話したり聞いたりしている。((1)オ) (②思・判・表)「話すこと・聞くこと」において、姿勢や口形、声の大きさや速さに注意して、はっきりとした発音で話している。(A(1)ウ) (③主体的態度)積極的に友達の話聞き、紹介の仕方を工夫することに關わる課題の解決に向けて、自分の夏休みの思い出を話そうとしている。			
過程	時間	学習活動	指導上の留意点	評価項目<評価方法(観点)>※太字は「記録に残す評価」
つかむ	1	○『ききたいな、ともだちのはなし』を読んだり、教師の夏休みにしたことの紹介を聞いて質問した感想を話し合ったりし、学習課題をつかむ。 学習課題 1年○組「夏休みにしたこと発表会」をしよう	○紹介する内容や質問する内容を知り、活動の見通しをもてるよう、具体的な絵や写真とともに、「夏休みにしたこと発表会」のモデルを提示する。	◇紹介された内容に関わって、質問したり感想を発言している。 <発言③>
ふかめる・ふりかえる	1	○夏休みにしたことから、紹介することを決め、絵に表したり、話す内容を考えたりする。	○紹介できることや、紹介したいことを考えられるよう、「いつ」「どこで」「だれと」「なにをした」「きもち」などの観点を提示したり、詳しく伝えるための語句を例示したりする。	◇時間や場所、人物、行動、気持ちの各観点到に沿って、スピーチメモを書いている。 <学習プリント①>
	1	○ペアで、絵を見せながら紹介の練習をする。	○姿勢や口形、声の大きさ、話す速さを意識できるよう、ペアで紹介の練習をし、互いの紹介のよさを見合う機会を設定する。	◇最後まではっきりとした発音で話している。 <スピーチ②>
	2	○絵を見せながら全体の前で紹介し合い、感想やよさを伝え合う。	○姿勢や口形、声の大きさや速さを意識して話せるよう、よりよい話し方の例を提示する。	◇姿勢や口形、声の大きさや話す速さに注意しながら、はっきりとした発音で話している。 <スピーチ②>

【備考】
○絵の裏側に、話す内容を言葉や文で書いてもよいこととするが、全体の前で紹介する際には、なるべく見ないようにする。
○夏休みにしたことを絵に描き表さず、写真等を家庭から持参し、実物投影機で示しながらスピーチしてもよい。
○朝の1分間スピーチなどで継続して取り組めるとよい。

単元	19 おきにいの ばめんを つたえよう (『やくそく』)		9月(9時間…C9)
目標	挿絵や叙述を手がかりにして、登場人物の行動を具体的に想像しながら読むことができる。		
議題	物語『やくそく』を読み、想像したことを聞き合う活動(イ)		
評価 規準	(①知・技)音節と文字との関係に注意しながら、平仮名や漢字を声に出して読んでいる。(I)イ (②思・判・表)「読むこと」において、挿絵や登場人物の会話、行動を表す言葉に着目して、場面の様子や登場人物の行動を具体的に想像しながら読んでいる。(C(I)エ) (③主体的態度)積極的に文章を読み、学習課題の解決に向けて、場面の様子や登場人物の行動を進んで想像しようとしている。		
過程	時間	学習活動	指導上の留意点
つかむ	1	○挿絵を基に、粗筋や登場人物を確認して、学習課題をつかむ。 学習課題 『やくそく』を読んで、気に入ったところを伝え合おう	○場面の様子に着目しながら読めるよう、挿絵や教科書本文を提示する。
ふかめる	5	○場面ごとに、場面の様子や登場人物の行動について想像したことを友達と聞き合う。 ・木の葉を食べて大きくなる一匹のあおむし (最初～P.103 L.1) ・同じ木を巡って言い合いをする二匹のあおむし (P.103 L.3～P.104 L.4) ・同じ木の葉を巡って大げんかをするあおむしたち (P.104 L.6～P.105 L.7) ・木の上で外の世界を見るあおむしたち (2時間配当) (P.105 L.8～最後)	○場面の様子や登場人物の行動を想像する手掛かりを得られるよう、視点として「あおむしが見たこと」と「あおむしがしたこと」を提示する。 ○音節と文字との関係を意識して読めるよう、想像した場面やお気に入りの場面を友達に聞いてもらう機会を設定する。
ふりかえる	2 1	○クラスの友達とお気に入りの場面を音読しながら伝え合う。 ○まとめのテストを行う。	○相手意識をもって読み聞かせをできるように、クラスの友達や教育実習生等を相手に読み聞かせをする機会を十分確保する。
【備考】 ○実習単元として設定してもよい。(R04は実習の示範授業として提示したため、指導案が教育実習委員会のフォルダにある。) ○まとめのテストについては、裏面の言葉の学習の授業に応じて、実施の時期を決める。			

評価項目<評価方法(観点)>※太字は「記録に残す評価」

◇『やくそく』の気に入った場面について発言している。
<発言③>

◇登場人物の会話や行動に着目し、場面の様子や登場人物の行動について想像したことを友達に伝えたり、記述したりしている。
<発言・本文シート②>

◇音節と文字との関係に気を付けながら、声を出して読んでいる。
<音読①>

◇想像したことを基に、お気に入りの場面について伝えている。
<音読・発言②>

◇6割以上の問題について、正答を出している。
<テスト①②>

単元	20 せつめいの ぶんしょうを よく よもう (『うみの かくれんぼ』)		9月 (12時間…B6C6)	
目標	事柄の順序に気を付けて、身を隠す生き物について書かれた文章を読むことができる。			
議題	説明的な文章『うみの かくれんぼ』を読み、分かったことを聞き合う活動 (C(1)ア)			
評価 規準	(①知・技)主語と述語との関係に注意して文章を読んでいる。(1)カ (②思・判・表)「書くこと」において、『うみの かくれんぼ』を読んで分かったことを基に、他の生き物の隠れ方を調べ、生き物図鑑に書きたいことを明確している。(B(1)ア) 「読むこと」において、事柄の順序や文と文との続き方を考えながら、内容の大体を捉えている。(C(1)ア) (③主体的態度)積極的に文章の中の大事な言葉を意識しながら、生き物図鑑を作ることに関わる課題の解決に向けて、身を隠す生き物について書かれた文章を読んでいる。			
過程	時間	学習活動	指導上の留意点 評価項目<評価方法(観点)>※太字は「記録に残す評価」	
つかむ	1 1	○『うみの かくれんぼ』の範読を聞き、言語活動「事柄の順序に気を付けて書いた説明文を添えた生き物図鑑をつくる」を知る。 ○文章全体の構成について読み取ったことを基に、学習課題をつかむ。 学習課題 問いの文と答えの文に気を付けて、説明の文章の書き方をよく読もう	○身を隠す生き物に関心をもてるよう、感想を交流する際、写真とともに「隠れている場所」「隠れ方」の視点を提示する。 ○問いと答えの関係に着目できるよう、「くちばし」の文と比較する活動を設定する。	◇身を隠す生き物について、初めて知ったことや詳しく知りたいこと等の感想を発言している。 <発言③> ◇問いが1つであることや、答えの文が3文で構成されていることを記述している。 <学習プリント②>
ふかめる	1 1 1 1	○はまぐりの隠れ方について、文と文との続き方に注意して、読み取る。 ○たこの隠れ方について、文と文との続き方に注意して、読み取る。 ○もくずしよいの隠れ方について、文と文との続き方に注意して、読み取る。 ○3つの生き物の隠れ方について、文章の書かれ方の共通点を話し合う。	○「なに」「どのように」という文と文との続き方に気付けるよう、問いの文を色分けをして提示する。 ○「名前」「場所」「隠れ方」に加えて「体の特徴」に気付けるよう、はまぐりの隠れ方の本文と、「はまぐりの説明と似ているところ」という観点を提示する。 ○文と文との続き方に着目できるよう、「名前」「場所」「体の特徴」「隠れ方」という観点を提示する。 ○それぞれの生き物を説明した文章の共通点に気付けるよう、3文が対応するように黒板上に提示する。	◇問いに対する答えとして、「はまぐりの名前」「隠れる場所」「隠れ方」に線を引いている。 <学習プリント①②③> ◇はまぐりとの共通点を基に、「たこの名前」「隠れる場所」「体の特徴」「隠れ方」に線を引いている。 <学習プリント①②③> ◇はまぐり・たこの共通点を基に、もくずしよいの隠れる場所と隠れられるわけ、隠れ方を記述している。 <学習プリント①②③> ◇3文の共通点に線を引いたり、言葉で書き加えたりしている。 <学習プリント②>
ふりかえる	2 2 1 1	○身を隠す生き物について図書資料で調べる。 ○身を隠す生き物について調べたことを図鑑に書いてまとめる。 ○書いた図鑑を読み合い、よさを伝える。 ○まとめテストを行う。	○身を隠す生き物について調べられるように、図書資料をロイロノートの資料箱に用意する。 ○教科書の文型を用いて紹介文を書けるよう、「場所」「隠れられるわけ」「隠れ方」の項目のある学習プリントを用意する。 ○友達の書いた文章の文と文との続き方に着目できるよう、「場所」「隠れられるわけ」「隠れ方」を観点として提示する。	◇調べたいことに応じて図書資料を読んでいる。 <活動②> ◇「場所」「隠れられるわけ」「隠れ方」という続き方で図鑑を書いている。<学習プリント②> ◇文と文との続き方に着目して、図鑑のよさを伝えている。 <発言②> ◇6割以上の問題について、正答を出している。 <テスト①②>

【備考】

○H30は実習の示範授業として提示したため、指導案が実習委員会のフォルダにある。R04は実習単元として扱った。
 ○身を隠す生き物の図鑑は図書室にあるので活用するとよい。また、図鑑のコピーが1年フロアのロッカーにあるので活用するとよい。

国語科 1年

- 身を隠す生き物について興味関心をもてるよう、「かくれんぼクイズ」を単位時間の導入等で継続的に行うとよい。
- ふりかえる過程において、図書の資料をロイロノートのフォルダに入れて、活用することができる。
- まとめのテストについては、裏面の言葉の学習の授業に応じて、実施の時期を決める。

〈言葉の学習〉(『かずと かんじ』)

10月(2時間…知・技2)

目標 数え歌を読んだり書いたりすることができる。

評価規準 (①知 ・ 技)第1学年に配当されている漢字を読み、漸次書いている((1)エ)
(③主体的態度)積極的にものの数え方に興味をもち、これまでの学習や経験を生かし、漢数字を書いたり、読んだりしようとしている。

- 「一・二・三・四・五・六・七・八・九・十」の漢字の読み方や書き方、ものの数え方を理解し、正しく読んだり書いたりする。
- 習った漢数字を使って短文作りをする。

単元	21 ものがたりの せかいを そうぞうしよう (『くじらぐも』)		10月(9時間…C9)
目標	叙述や挿絵を手掛かりに、場面の様子と結び付けながら登場人物の会話や様子、動き等を具体的に想像することができる。		
議題	物語『くじらぐも』を読み、想像したことを聞き合う活動(イ)		
評価 規準	(①知・技)会話文にはかぎ(「 」)が使われていることに気付き、具体的に想像する際に会話の内容等を用いている。((1)ウ) (②思・判・表)「読むこと」において、物語の場面の様子と結び付けながら登場人物の会話や様子、動き等を具体的に想像している。(C(1)エ) (③主体的態度)積極的に想像したことを進んで友達と伝え合い、学習課題の解決に向けて、登場人物の会話や様子、動き等を具体的に想像し、表現しようとしている。		
過程	時間	学習活動	指導上の留意点 評価項目<評価方法(観点)>※太字は「記録に残す評価」
つかむ	1	○『くじらぐも』を読んだ感想を話し合い、学習課題をつかむ。 学習課題 『くじらぐも』の登場人物になって、物語の世界を楽しむ	○物語の世界を身近に感じられるよう、「もし自分が1年2組の友達だったらどう思うか」という視点を提示する。 ◇自分が思うことやすることを想像して、発言している。 <発言③>
ふかめる	6	○もし自分がクラスの友達だったら、どのような会話をしたり、行動をとったりするかを考え、物語に書き加える。 ・空に現れたくじらぐも(最初～P.6 L.5) ・みんなのまねをするくじらぐも(P.7 L.1～P.8 L.4) ・みんなを空へ誘うくじらぐも(P.8 L.5～P.9 L.10) ・くものくじらに乗る先生と子どもたち(P.10 L.1～P.11 L.9) ・青い空をおよぐくじらぐも(P.12 L.1～P.13 L.5) ・みんなを下ろして帰っていくくじらぐも(P.14 L.1～P.15 L.10)	○想像した会話文や行動描写を書き加えることができるよう、主語やかぎ(「 」)を示した学習プリントを用意したり、「自分らしさ」「物語とのつながり」を観点として提示したりする。 ◇想像したことの根拠として、会話文や行動描写、挿絵に描かれた登場人物の様子に着目して発言している。 <発言①②③>
ふりかえる	1 1	○書き加えた物語を読み合い、よさを伝え合う。 ○まとめテストを行う。	○想像したことのよさに着目できるよう、「なって感じたこと」「見て気付いたこと」を観点として提示する。 ◇観点に沿って、想像したことのよさを伝えていく。 <発言②> ◇6割以上の問題について、正答を出している。 <テスト①②>
【備考】 ○ROIまでは、実習単元として扱っていたため、実習単元として設定してもよい。 ○まとめのテストについては、裏面の言葉の学習の授業に応じて、実施の時期を決める。			

単元	22 くわしく かこう (『しらせたいな, 見せたいな』『まちがいを なおそう』)		10月(17時間…B17)
目標	経験したことから書くことを決め, 書こうとする題材に必要なことを集めて文章を書くことができる。		
議題	赤城オリエンテーリングで経験したことを書く活動(ア)		
評価規準	(①知・技)言葉には, 自分が経験したことを表現したり伝えたりする働きがあることに気付いている。(I)ア (②思・判・表)「書くこと」において, 経験したことを書くために必要な事柄を思い出し, 伝えたいことを明確にしている。(B(I)ア) (③主体的態度)積極的に経験したことから書きたいことを決め, 学習課題の解決に向けて, 文章を書こうとしている。		
過程	時間	学習活動	指導上の留意点
つかむ	1	○赤城オリの感想を発表し合い, 学習課題をつかむ。 学習課題 お家の人に, 赤城オリで楽しかったことをくわしく教える作文を書けるようになる	○赤城オリで経験したことや感じたことを想起できるよう, 赤城オリの写真を複数提示する。
	1	○モデルの文を読んで, 書くときに必要なことや, 経験したことを文章に書く際の書き方を話し合う。	○書くときに必要なことに気付けるよう, 書き方のポイントを伝え合う機会を設定する。
ふかめる	4	○楽しかったことや, おもしろかったことを思い出して, 文章を書く。 ・「したこと」「思ったこと」などの事柄ごとに, 取材カードに1文で表す。 ・取材カードに表した文を, 順序に気を付けて並べる。 ・下書きをする。	○楽しかったことや, おもしろかったことについての文章を書くことができるよう, 「したこと」「思ったこと」を観点として提示し, 文の順序や文と文との続け方をまとめた模造紙を掲示する。
	1	○『まちがいを なおそう』を読み, 自分の下書きの間違っているところを修正する。	○書いた文章を修正する方法に気付けるよう, 間違った文章のモデルを提示する。
	2	○清書をする。	○楽しかったことや, おもしろかったことについての文章を正しく書けるよう, 修正点を確認する機会を設定する。
	1	○互いの作文を読み合い, よさを伝え合う。	○友だちの作文のよさを見付けることができるよう, 読んだ感想を書くための付箋を準備する。
ふりかえる	6	○以下の題材例について, 「ふかめる」過程の学習と同様に, 楽しかったことや, おもしろかったことを作文に書く。 題材例: 給食試食会・生活科の学習・お楽しみ集会	○楽しかったことや, おもしろかったことを思い出して書くことができるよう, 2学期の活動(行事)と関連させながら, 1つの題材につき, 3時間扱い, 他の単元と並行して実施できる題材例を提示する。
	1	○互いの作文のよさを認め合い, 学習を振り返る。	○友達の作文のよさを見付けることができるよう, 読んだ感想を書くための付箋紙を準備する。
【備考】 ○200~400字程度(原稿用紙1枚程度)の文章が書けるようになることをねらいとする。カリ管のデータサーバーに原稿用紙が保存してある。 ○「したこと」を事柄ごとに1文で表せる取材カード(付箋紙など)を用意し, それをつなげて文章にするとよい。 ○句点, 読点, 「」(かぎ)「は・を・へ」の正しい使い方について, この単元を通して指導をする。			

評価項目<評価方法(観点)>※太字は「記録に残す評価」

◇赤城オリで楽しかったことや, 頑張ったこと等を発表している。
<発言③>

◇自分が経験したことを伝えるための, 言葉の使い方について発言している。
<発言①>

◇「したこと」「思ったこと」などを思い出して, 文章を書いている。<取材カード・下書き②>

◇提示したモデルについて, 修正点に印を付けたリ, 修正方法を具体的に書いたりしている。
<学習プリント②>

◇修正点について, 具体的な修正方法を用いて文章を書いている。
<原稿用紙①②③>

◇友だちが伝えたいことを読み取り, そのよさを伝えている。
<付箋③>

◇いろいろな出来事の中での「したこと」「思ったこと」を思い出して, 文章を書いている。
<学習プリント②>

◇友達が伝えたいことを読み取り, そのよさを伝えている。
<付箋紙③>

〈言葉の学習〉(『ことばを たのしもう』)		10月(2時間…知・技2)
目標	濁音・半濁音・発音の入った詩や早口言葉のおもしろさを味わいながら、声に出して読むことができる。	
評価 規準	(①知・技)長く親しまれている言葉遊びを通して、言葉の豊かさに気付いている((3)イ) (③主体的態度)積極的に詩や早口言葉を楽しみ、これまでの学習や経験を生かし、発声や姿勢に気を付けながら声に出して読もうとしている。	
○教科書の早口言葉を繰り返し調子よく読む、 ○他の早口言葉を探して友達と読み合う。		

単元	23 たのしく かこう『かん字のはなし』	11月(6時間…B4知・技2)
目標	漢字を使った文を、続き方に気を付けて書くことができる。	
議題	漢字を使った短文クイズを作る活動(ウ)	
評価 規準	(①知・技)第1学年に配当されている漢字を読み、漸次書き、文や文章の中で使っている。((1)エ) (②思・判・表)「書くこと」において、語と語との続き方に注意しながら、短文クイズになるように書き表し方を工夫している。(B(1)ウ) (③主体的態度)積極的に漢字の成り立ちに興味をもち、学習課題の解決に向けて、漢字を使った短い文を書こうとしている。	
○絵を見て、漢字を当てるクイズを行い、絵からできた漢字があることを知る。 ○何の絵かを予想して、正しく漢字に直す。 ○絵を使って描かれた文章を、漢字を使った文章に直す。 ○絵を使った文章の下書きをする。 ○絵を使った文章の清書をする。 ○書いた文章を読み合い、感想を伝え合う。		

単元	24 じどう車ずかんをつくろう (『じどう車くらべ』『じどう車ずかんをつくろう』)		11月(17時間…B11C6)
目標	事柄の順序に気を付けて、書かれている内容を読み取ったり、文章を書いたりすることができる。		
議題	説明的な文章『じどう車くらべ』を読み、分かったことをまとめる活動(ア)		
評価規準	(①知・技)言葉には、事物の内容を表す働きがあることに気付いて文章を読んだり書いたりしている。(I)ア (②思・判・表)「書くこと」において、乗り物の「しごと」と「つくり」について、説明の順序を考えながら文章を書いている。(B(I)イ) 「読むこと」において、自動車の「つくり」の理由を文章から見付けながら読んでいる。(C(I)ウ) (③主体的態度)積極的に乗り物の「しごと」と「つくり」に関心をもち、学習課題の解決に向けて、文章を読んだり書いたりしようとしている。		
過程	時間	学習活動	指導上の留意点
つかむ	1	○知っている自動車や自動車図鑑のモデルを見て気付いたことを発表し合い、学習課題をつかむ。 学習課題 自動車のことを調べて、自動車図鑑を作ろう	○自動車の「しごと」や「つくり」について関心をもてるよう、教材文の構成を生かした、自動車図鑑のモデルを提示する。
	1	○教材文を読んで、教材文の内容について話し合い、学習計画を立てる。	○教材文に書かれている内容に気付けるよう、自動車図鑑のモデルとの共通点や相違点を視点として提示する。
ふかめる	4	○それぞれの自動車について書かれた文章を比べて読み、「しごと」「そのために」「つくり」という文章の構成を捉える。 ・バスや乗用車の文章を読み、「しごと」と「つくり」を話し合う。 ・トラックの文章を読み、「しごと」と「つくり」を話し合う。 ・クレーン車の文章を読み、「しごと」と「つくり」を話し合う。 ・3つの文章のつくりを基に、共通点を話し合う。	○それぞれの自動車のしごととつくりの関係に気付けるよう、「しごと」「そのために」「つくり」を色分けして板書する。
	9	○自分の好きな自動車を選び、自動車図鑑を書く。 ・好きな自動車の「しごと」と「つくり」を調べる。 ・調べた「しごと」と「つくり」について、同じ自動車を選んだグループで伝え合う。 ・教材文の構成を生かして、自動車図鑑の下書きをする。 ・同じ自動車を選んだグループで下書きを読み合い、自分の下書きを修正する。 ・文章の清書をしたり、自動車の絵を描いたりして、図鑑を仕上げる。	○図鑑に書く自動車について、順序に気を付けて書けるよう、「しごと」と「つくり」が明確な自動車を提示する。 (例) ・ショベルカー ・パトロールカー ・救急車 ・消防車 など
ふりかえる	1	○完成した図鑑を読み合い、学習のまとめをする。	○「しごと」と「つくり」の関係について理解を深められるよう、図鑑作りの感想を発表し合う機会を設定する。
	1	○まとめテストを行う。	
【備考】 ○自動車図鑑のモデルは1年フロアのロッカーに保管してある。また、図鑑のデータがカリ管データサーバに保存してある。 ○図書室に自動車に関わる図鑑があるので活用するとよい。 ○自動車図鑑を書く際には、図書の資料をロイロノートのフォルダに入れて、活用することができる。 ○まとめのテストについては、裏面の言葉の学習の授業に応じて、実施の時期を決める。			

評価項目<評価方法(観点)>※太字は「記録に残す評価」

◇いろいろな自動車の「しごと」や「つくり」についての感想を発言している。 <発言③>

◇自動車の種類や図鑑の内容について、学習計画と関わらせて発言している。 <発言③>

◇「しごと」「そのために」「つくり」という構成に着目し、「しごと」と「つくり」を関わらせて「つくり」を説明している。 <発言①②③>

◇「しごと」「つくり」の順序に気を付けて、図鑑を作っている。 <図鑑①②③>

◇自動車図鑑を作った感想を、「しごと」と「つくり」に関わらせて発表している。 <発言③>

◇6割以上の問題について、正答を出している。 <テスト①②>

〈言葉の学習〉(『かたかなを かこう』)		11月(2時間…知・技2)
目標	身の回りから片仮名の言葉を見つけたり、書いたりすることができる。	
評価 規準	(①知・技)片仮名を読み、書くとともに、文の中で使っている。((1)ウ) (③主体的態度)積極的に片仮名の言葉を見つけ、これまでの学習や経験を生かし、片仮名の表記の仕方に気を付けながら、文の中で使おうとしている。	
○教科書を読んで、拗音や促音、撥音に気を付けて、片仮名の言葉を練習する。 ○身の回りから言葉を集めて、片仮名の練習をする。		

単元	25 きいて しらせよう(『ともだちの こと、しらせよう』)	11月(4時間…A4)		
目標	話す順序に気を付けて、丁寧な言葉遣いで話すことができる。			
議題	友達に質問をして分かったことを、大人数の前で話す活動(A)			
評価 規準	(①知・技)敬体を用いて話している。((1)キ) (②思・判・表)「話すこと・聞くこと」において、質問の順序に気を付けて、丁寧な言葉遣いでインタビューしている。(A(1)エ) (③主体的態度)積極的に友達の「楽しいこと」に興味をもち、学習課題の解決に向けて、インタビューしたり、紹介したりしようとしている。			
過程	時間	学習活動	指導上の留意点	評価項目<評価方法(観点)>※太字は「記録に残す評価」
つかむ	1	○自分の楽しいと思うことを発表し合ったり、教材文を読んだりして、学習課題をつかむ。 学習課題 友達に、一番楽しいことを聞いて、みんなに知らせよう	○友達の楽しいと思うことに興味をもてるよう、楽しいこととその理由を発表したり質問したりする機会を設定する。	◇友達の楽しいと思うことについて質問している。 <発言③>
ふかめる・ふりかえる	1	○インタビューの方法を知り、友達に「楽しいこと」を質問する。	○インタビューの方法を知ることができるよう、インタビューのモデルを演示する。	◇順序に気を付けて、丁寧な言葉遣いを用いてインタビューをしている。 <発言①②③>
	1	○質問したことを、発表メモにまとめる。	○インタビューしたことを整理できるよう、発表メモ用の学習プリントを用意する。	◇発表メモ用の学習プリントに、インタビューの内容を整理して記述している。 <学習プリント②>
	1	○「友達の楽しいこと発表会」をする。	○友達の楽しいと思うことを順序に気を付けて紹介できるよう、発表のモデルを演示する。	◇紹介の順序に気を付けて、進んで紹介している。 <発言③>

単元	26 本は ともだち (『むかしばなしを よもう』『おかゆの おなべ』『わらしべちようじゃ』)	11月 (4時間…C3知・技1)
目標	昔話の面白いところを見付け、楽しみながら読むことができる。	
議題	昔話の読み聞かせを聞いたり読んだりして、感想や内容を紹介する活動。(イ)	
評価 規準	(①知・技)昔話の読み聞かせを聞く等して、我が国の伝統的な言語文化に親しんでいる。(3)ア (②思・判・表)「読むこと」において、昔話を読んで感じたことを共有している。(C(1)カ) (③主体的態度)積極的に昔話の読み聞かせを楽しみ、これまでの学習を生かし、感想や内容を紹介しようとしている。	
	<ul style="list-style-type: none"> ○『おかゆの おなべ』の読み聞かせを聞き、感想を話し合う。 ○『わらしべちようじゃ』の読み聞かせを聞き、感想を話し合う。 ○知っている昔話を発表し合う。 ○図書室で、好きな昔話を見付ける。 ○好きな昔話を紹介し合う。 	
	<p>【備考】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○公共図書館の貸し出しを活用して、昔話を用意できるとよい。 	

単元	27 ものがたりを たのしもう (『たぬきの 糸車』)		11・12月(9時間…C9)
目標	挿絵や叙述を手がかりにして、場面の様子を具体的に想像しながら読むことができる。		
議題	物語『たぬきの 糸車』を読み、想像したことを聞き合う活動(イ)		
評価規準	(①知・技)主語と述語との関係に注意している。(1)カ (②思・判・表)「読むこと」において、文章の内容と自分の体験とを結び付けて、感想をもっている。(C(1)オ) (③主体的態度)積極的に想像したことを進んで友達と伝え合い、学習課題の解決に向けて、登場人物の会話や様子、動き等を具体的に想像しようとしている。		
過程	時間	学習活動	指導上の留意点 評価項目<評価方法(観点)>※太字は「記録に残す評価」
つかむ	1	○題名やたぬきについて想像したことを発表し合ったり、『たぬきの糸車』を読んだ感想を発表し合ったりして、学習課題をつかむ。 学習課題 たぬきとおかみさんの様子をくわしく想像しながら読もう	○たぬきやおかみさんについての感想をもてるように、挿絵を用いて、場面ごとに「登場人物がしたこと」を確認する機会を設ける。 ◇場面ごとに、たぬきやおかみさんの行動についての感想を記述している。 <ノート③>
ふかめる	6	○場面ごとのたぬきとおかみさんの行動を基に、場面の様子を聞き合う。 ・周りの情景とたぬきの登場 ・糸車を回すおかみさんとまねをするたぬき ・わなにかかったたぬきとそれを助けたおかみさん ・春に小屋に戻り、糸の束を見つけたおかみさん ・たぬきが糸を紡ぐのをそっとのぞくおかみさん ・踊りながら帰るたぬきとそれを見送るおかみさん	○登場人物の行動を基に場面の様子を想像できるように、たぬきやおかみさんの「したこと」や「言ったこと」等に線を引いたり、周りの様子を聞き合ったりする際に用いるペアシートを用意する。 ◇登場人物の具体的な行動や会話を根拠にして、場面の様子を記述している。 <学習プリント①②③>
ふりかえる	1 1	○気に入った場面を発表し合い、学習を振り返る。 ○まとめテストを行う。	○想像を広げた場面を具体的に紹介できるように、登場人物の行動や会話に着目して、理由を書く学習プリントを用意する。 ◇場面や登場人物の行動や会話を根拠にして気に入った場面を紹介している。 <発表・学習プリント②> ◇6割以上の問題について、正答を出している。 <テスト①②>
【備考】 ○まとめのテストについては、裏面の言葉の学習の授業に応じて、実施の時期を決める。			

〈言葉の学習〉(『日づけと よう日』)		12月(3時間…知・技3)
目標	日付歌や曜日歌を読んだり書いたりすることができる。	
評価 規準	(①知 ・ 技)身近なことを表す語句の量を増し、語彙を豊かにしている。((1)才) (③主体的態度)積極的に日付や曜日を表す言葉に関心をもち、これまでの学習や経験を生かし、日付歌や曜日歌を繰り返し音読したり書いたりしようとしている。	
<input type="checkbox"/> 日付の読み方に気を付けて、教科書を繰り返し音読する。 <input type="checkbox"/> 曜日や日付に関する漢字の読み方や書き方を練習する。		
<hr style="border-top: 1px dashed black;"/> <input type="checkbox"/> 2学期の言語事項について、まとめのテストをする。		

単元	28 おてがみを だしてみよう (『てがみで しらせよう』)		12月(7時間…B7)
目標	書いた文章を見直ししながら、身近な人に手紙を書くことができる。		
議題	身近な人に手紙を書く活動(イ)		
評価 規準	(①知・技)丁寧な言葉と普通の言葉との違いに気を付けて使うとともに、敬体で書かれた文章に慣れている。(I)キ (②思・判・表)「書くこと」において、自分が書いた文章を読み返す習慣を付けるとともに、間違いを正したり、語と語や文と文との続き方を確かめたりしている。(B(I)エ) (③主体的態度)積極的に書いた文章を見直ししながら、身近な人に手紙を書くことに関する課題の解決に向けて、手紙を書こうとしている。		
過程	時間	学習活動	指導上の留意点 評価項目<評価方法(観点)>※太字は「記録に残す評価」>
つかむ	1	○手紙を書いたり、もらったりした経験を発表し合い、手紙のモデルを読み、学習課題をつかむ。 学習課題 大切な人にお手紙を書いて出してみよう	○自分の経験を書いて伝えることへの意欲を高めることができるよう、教師の「最近うれしかったこと」や「最近楽しかったこと」を書いた手紙のモデルを提示する。 ◇自分が書きたい「最近うれしかったこと」や「最近楽しかったこと」を発言している。 <発言③>
ふかめる	1	○手紙を出す相手と手紙で知らせる内容を決める。	○手紙で知らせる内容を明確にすることができるよう、手紙を出す相手に知らせたい内容を複数書き込むことができる学習プリントを準備する。 ◇手紙を出す相手を決め、知らせる内容をおおまかに書いている。 <学習プリント③>
	2	○手紙の下書きをする。	○語と語や文と文との続き方に気を付けながら手紙を書くことができるよう、手紙を声に出して読み直す機会を設定する。 ◇自分の手紙を声に出して読みながら、間違いを正したり、書いた文の適切さを確かめたりしている。 <手紙の下書き・行動②>
	1	○書いた手紙を友達と読み合う。	○語と語や文と文との続き方の適切さに着目できるよう、友達と読み合う際、「言葉のつながり」「字の間違い」を視点として提示する。 ◇言葉のつながりの適切さや時の間違い等を指摘しながら、友達の手紙を読んでいる。 <行動③>
	1	○手紙の清書をする。	○語と語や文と文との続き方に気を付けながら手紙の清書を書くことができるよう、手紙を声に出して読み直す機会を設定する。 ◇自分の手紙を声に出して読みながら、間違いを正したり、書いた文の適切さを確かめたりしている。 <手紙・行動①>
かふえりる	1	○手紙の投函の仕方を確認し、学習の振り返りをする。	○書いた文章を見直すことのよさに気付くことができるよう、振り返りの観点を示した学習プリントを用意する。 ◇手紙を読み返しながら書いたことを、学習を振り返る中で発言したり記述したりしている。 <発言・学習プリント③>
【備考】 ○生活科「ようこそ白組・緑組」の学習との関連・合科で指導する場合、11月の単元との入れ替えを行う。その場合、学校の様子を幼稚園児に知らせ、その後に交流を行う形がよい。 ○手紙を出す相手は、家族や先生、友達等が考えられる。 ○R04は、書いた手紙を投函することまで考えて、宛先は「一緒に済んでいない人」「学級以外の友達」などから選択させることとした。 ○封筒(白)を一人一枚学習教材費から購入し、書いた手紙を入れて持ち帰らせた。学年通信等で、切手を貼って投函してもらえるように保護者に依頼した。			

単元	29 なりきって よもう (『かたつむりの ゆめ』『おいらい』)	1月(2時間…C2)
目標	語のまとまりごとに意味を考えながら、音読することができる。	
議題	詩『かたつむりの ゆめ』と『はちみつの ゆめ』を音読する活動(イ)	
評価 規準	(①知・技)語のまとまりや言葉の響き等に気を付けて音読している。((1)ク) (②思・判・表)「読むこと」において、場面の様子等、内容の大体を捉えている。(C(1)イ) (③主体的態度)積極的に詩の内容を捉え、これまでの学習を生かして音読を楽しもうとしている。	
○叙述や挿絵を基に、場面の様子を思い浮かべながら『かたつむりの ゆめ』や『はちみつの ゆめ』を読む。 ○詩の表現に合った読み方の工夫を考え、音読する。		

単元	30 もっと みんなと はなそう (『くわしく きこう』)	1月(3時間…A3)		
目標	友達に本の紹介をしたり、友達の本の紹介を聞いて質問したりすることができる。			
議題	好きな本について友達に尋ねたり、自分が尋ねられたら応答したりして、少人数で話し合う活動(イ)			
評価 規準	(①知・技)身近なことを表す語句の量を増し、話の中で使い、語彙を豊かにしている。((1)オ) (②思・判・表)「話すこと・聞くこと」において、友達が知らせたいことや自分が聞きたいことを落とさないように集中して聞き、話の内容を捉えて感想をもっている。(A(1)エ) (③主体的態度)積極的に友達の話聞き、学習課題の解決に向けて、好きな本について話し合おうとしている。			
過程	時間	学習活動	指導上の留意点	評価項目<評価方法(観点)>※太字は「記録に残す評価」
つか む	1	○好きな本について話す教師のモデルを見たり、教師に質問をしたりして、学習課題をつかむ。 学習課題 好きなお話について詳しく聞き合おう	○質問することで、話題について詳しく聞くことができることに気付けるよう、教師のモデルを提示した後に、教師の好きな本について質問できる時間を設定する。	◇教師のモデルに関わって、質問したり感想を発言したりしている。 <発言③>
ふふ りか かめ える ・	2	○自分の好きな本を友達に紹介する。	○好きな本を決めることができるよう、読書記録や音読カードを見返す機会を設定する。	◇知りたいことを考えながら友達の話の話を聞いたり、自分の好きな本について話したりしている。 <行動①②③>
【備考】 ○好きな本を見つけることができるよう、事前に図書室を利用したり、宿題として「好きな本を一冊音読する」等に取り組ませたりするとよい。				

〈言葉の学習〉(『ことばで あそぼう』)		1月(2時間…知・技2)
目標	言葉遊びを楽しむことができる。	
評価 規準	(①知・技)身近なことを表す語句の量を増し、語彙を豊かにしている。((1)オ) (③主体的態度)積極的に言葉遊びに取り組み、これまでの学習を生かして自分でも言葉遊びを作成しようとしている。	
○教科書を読み、言葉遊びの仕組みを理解する。 ○言葉遊びのルールを自分で決めて問題を作ったり、作った問題を友達に解いてもらったりする。		

単元	31 おみせやさんごっこをしよう (『ものの 名まえ』)		1月 (7時間…A6, 知・技1)
目標	立場を変えて、聞きたいことについて尋ねたり、必要なことを答えたりすることができる。		
議題	買い物の場面での、店の人に尋ねたり、買い物客の質問に答えたりする活動 (ア)		
評価規準	(①知・技)意味による語句のまとまりや上位語・下位語の関係に気付くことができる。((1)オ) (②思・判・表)「話すこと・聞くこと」において、買い物客と店の人の立場に応じて、品物の種類や数について尋ねたり、答えたりしている。(A(1)エ) (③主体的態度)積極的に物の名前や買い物に興味をもち、学習課題の解決に向けて、話したり聞いたりしようとしている。		
過程	時間	学習活動	指導上の留意点
つかむ	1	○買い物をした時の経験を話し合ったり、『ものの 名まえ』を読んだ感想を伝え合ったりし、学習課題をつかむ。 学習課題 ○仲間の言葉に気を付けて、お店屋さんごっこをして質問したり答えたりしよう	○買い物の場面における話す・聞くという学習の方向性を意識できるように、「お店屋さんごっこに必要なこと」という観点を提示する。
ふかめる	1	○仲間の言葉を考え、お店屋さんごっこで開く店を考えたり、開きたいお店ごとにグループを決めたりする。	○お店屋さんごっこで開く店の種類に複数気付くことができるよう、身の回りの店の写真や店名を例示する。
	2	○グループごとにお店屋さんごっこの準備をする。	○上位語と下位語の関係を理解できるように、品物の名前を書けるカードや品物を分類するコーナーを用意する。
	1	○『ものの 名まえ』を参考に、グループ内で「お店の人」と「お客さん」の話し方の練習をする。	○立場に応じた尋ね方や答え方を用いることができるよう、買い物客と店の人の話型を例示する。
ふりかえる	2	○お店屋さんごっこをし、学習を振り返る。	○立場に応じた尋ね方や答え方を生かしてお店やさんごっこができるように、グループ同士で買い物客と店の人という役割を設定する。
【備考】 ○お店屋さんごっこのグループは4人～5人とする。 ○お店屋さんごっこの際は、画用紙を小さく切ったものに「名前」「絵」を書くことよい。 ○第3・4時では、上位語・下位語の意識がもてるよう、品物の種類ごとに分類し、「○○コーナー」のような看板を作ってもよい。 ○質問の必要感が生じるよう、並べる品物を限定したり、見せずにやり取りするなど工夫することよい。			

〈言葉の学習〉(『かたかなの かたち』)		2月 (3時間…知・技3)
目標	片仮名の言葉を使って文を作ることができる。	
評価規準	(①知・技)片仮名を読み、書くとともに、文や文章の中で使っている。((1)ウ) (③主体的態度)積極的に形の似ている片仮名を見つけ、これまでの学習を生かして片仮名の言葉を使った文を書こうとしている。	
○形の似ている片仮名と平仮名や、片仮名と片仮名を区別して書く練習をする。 ○身の回りから片仮名で書くものを見つけ、見つけたものをノートに片仮名で書く。 ○片仮名で書くものを使った文を作って、発表し合う。		

〈言葉の学習〉(『ことばあそびを つくろう』)		2月(2時間…知・技2)
目標	人や動物等動くものの存在を表す動詞「いる」と物等動かないものの存在を表す「ある」の使い分けを理解して、文を作ることができる。	
評価 規準	(①知・技)身近なことを表す語句の量を増し、話や文章の中で使い、語彙を豊かにしている。((1)オ) (③主体的態度)積極的に身近なことを表す語句を使った文を書き、これまでの学習を生かして語彙を豊かにしようとしている。	
○言葉遊びの仕組みを理解し、□に言葉を入れて音読する。 ○「○○がある」「○○がいる」という文をつくる。		

単元	32 かんしゃの きもちを つたえよう		2月(7時間…B7)	
目標	文と文との続き方に注意して、文章を書くことができる。			
議題	家族への感謝の思いを伝える文章を色紙に書く活動(イ)			
評価 規準	(①知・技)句読点の打ち方や、主語と述語の関係に注意して、文章を書いている。((1)イ・カ) (②思・判・表)「書くこと」において、色紙を渡す相手に向けて、文と文との続き方に注意して文章を書いている。(B(1)ウ) (③主体的態度)家族への感謝の思いをもちながら、学習課題の解決に向けて、自らの思いを色紙に書いて伝えようとしている。			
過程	時間	学習活動	指導上の留意点	評価項目<評価方法(観点)>※太字は「記録に残す評価」
つか む	1	○手紙を書いたりもらったりした経験や学習発表会で感謝の気持ちを伝える方法を話し合い、学習課題をつかむ。 学習課題 お家の人へのありがとうの気持ちを色紙に書いて知らせよう	○色紙を書く目的を明確にもてるように、過年度の児童の色紙に書いてある内容をきっかけに、手紙を渡したりもらったりした時の気持ちを共有する時間を十分に設定する。	◇書いたりもらったりした手紙の内容やその時の気持ちについて発言している。 <発言③>
ふか める	1	○色紙を渡す相手と、書く事柄を考える。	○色紙を渡す相手と書く事柄を決められるように、家族との関わりの中で嬉しかったことや感謝していることを書き出す付箋紙を用意する。	◇手紙を渡す相手や書く事柄を付箋紙に記述している。 <付箋紙②>
	1	○色紙の形式を知り、文と文との続き方に気を付けて色紙の下書きをする。	○色紙の下書きを書けるように、文例を例示する。	◇付箋紙に書いた事柄をつなげて手紙の下書きを書いている。 <学習プリント②>
	1	○書いた下書きを読み、文と文との続き方を見直す。	○文と文との続き方に注意して自分の書いた下書きを読めるように、文の続き方の分かりにくいモデルを提示する。	◇モデルを基に、手紙の文を修正している。 <学習プリント②>
	2	○色紙の清書をする。	○句読点の打ち方に気を付けて色紙の清書ができるように、句読点の正しい打ち方を例示する。	◇句読点を正しく打って、色紙を清書している。 <色紙①>
ふり か え る	家庭 1	○色紙を読んだ感想を家族から聞く。 ○家族から聞いた感想を話し合い、学習を振り返る。	○色紙をもらった相手の気持ちや、色紙の書き方について感想をもてるように、単元を通して行ってきた学習内容を提示する。	◇文と文との続き方や、句読点の打ち方にふれて、感想を記述している。 <ノート①>
【備考】 ○書いた色紙は、学習発表会で保護者に渡す。 ○色紙の型紙は、1年ワークスペースに保管してある。				

単元	33 どうぶつの赤ちゃんはかせに なろう (『どうぶつの 赤ちゃん』)		2月(10時間…C10)	
目標	事柄の順序に気を付けて、書かれている内容を読み取ることができる。			
議題	説明的な文章『どうぶつの 赤ちゃん』や関連する図書を読み、分かったことを説明する活動(ウ)			
評価規準	(①知・技)共通, 相違, 事柄の順序等の情報と情報との関係について, 主語と述語や程度を表す語句に着目しながら理解している。(2)ア (②思・判・表)「読むこと」において, 文章を読んで感じたことや分かったことを共有している。(C(1)力) (③主体的態度)積極的に文章を読んで感じたことや分かったことをまとめ, 学習課題の解決に向けて, 動物の赤ちゃんについて説明しようとしている。			
過程	時間	学習活動	指導上の留意点 評価項目<評価方法(観点)> ※太字は「記録に残す評価」	
つかむ	1 1	○ライオンやしまうまについて知っていることや『どうぶつの赤ちゃん』についての初発の感想を聞き合う。 ○これまでの説明的な文章で学習したことを振り返り, 学習課題を立てる。 学習課題 ライオンとしまうまの赤ちゃんを比べて読み, 他の動物の赤ちゃん博士になろう	○動物の赤ちゃんへの関心を高められるよう, 「初めて知ったこと」「驚いたこと」という観点を提示する。 ○動物の赤ちゃんについて, 「生まれたときの様子」「成長の様子」という順序で説明されていることに気付く手掛かりを得られるよう, 問いの文を色分けする本文シートを用意する。	◇文章の内容に触れながら, 初めて知ったことや驚いたことを記述している。 <ノート③> ◇「生まれたときの様子」を問う文と「成長の様子」を問う文とを, それぞれ色分けしながら傍線を引いている。 <本文シート③>
ふかめる	2 1 1 2	○ライオンとしまうまの赤ちゃんについて, 「生まれたときの様子」と「成長の様子」を読み取る。 ○ライオンとしまうまの赤ちゃんについて読み取った内容を比べ, 考えたことを聞き合う。 ○カンガルーの赤ちゃんについて, 「生まれたときの様子」と「成長の様子」を読み取る。 ○他の動物の赤ちゃんについて書かれた本を読む。	○程度を表す語句に着目しながらライオンの赤ちゃんについて読み取れるよう, 「ぐらい」を使った文とそうでない文を提示する。 ○ライオンとしまうまの赤ちゃんの見た目や成長の様子の違いに気付けられるよう, 並べ替えたり比べたりできる段落カードをロイロノート上に用意する。 ○カンガルーの赤ちゃんの生まれたときや成長の様子を順序に気を付けて捉えられるよう, 「生まれたときの様子」「成長の様子」を提示する。 ○事柄の順序に気を付けて読むことができるよう, 他の動物の赤ちゃんについて書かれた本を読む観点として「生まれたときの様子」「成長の様子」を提示する。	◇「ぐらい」に着目しながら, ライオンの赤ちゃんの様子について発言したり, 記述したりしている。 <発言・本文シート①> ◇「生まれたときの様子」「成長の様子」という順序で段落カードを並べ, 様子の違いについての感想を発言している。 <ロイロノート・発言②> ◇カンガルーの赤ちゃんの「生まれたときの様子」や「成長の様子」について発言したり, 記述したりしている。 <発言・本文シート②> ◇他の動物の赤ちゃんの「生まれたときの様子」や「成長の様子」について発言したり, 記述したりしている。 <発言・学習プリント②>
かふえりる	1 1	○他の動物の赤ちゃんについて聞き合い, 学習の振り返りをする。 ○まとめテストを行う。	○いろいろな動物の違いを比べて読むことの楽しさを実感できるよう, 「生まれたときの様子」「成長の様子」を提示する。	◇違いに着目しながら, 友達の説明のよさを記述している。 <学習プリント②> ◇6割以上の問題について, 正答を出している。 <テスト①②>
【備考】 ○まとめのテストについては, 裏面の言葉の学習の授業に応じて, 実施の時期を決める。				

単元	34 なぞなぞゲームをしよう (『これはなんでしょう』)			2月(6時間…A6)
目標	話題に沿って話し合い、分からないことを尋ねたり、答えたりすることができる。			
議題	身の回りの物に関して尋ねたり答えたりして、少人数で話し合う活動(イ)			
評価規準	(①知・技)質問と応答の内容から、情報と情報との関係について理解している。(2)ア) (②思・判・表)「話すこと・聞くこと」において、互いの考えを最後まで聞き、話題に沿って問題の内容や出し方を話し合っている。(A(1)オ) (③主体的態度)積極的に身の回りの物に関する問題作りを楽しみ、学習課題の解決に向けて、問題の内容や出し方を話し合おうとしている。			
過程	時間	学習活動	指導上の留意点	評価項目<評価方法(観点)> ※太字は「記録に残す評価」
つかむ	1	○教師からの問題を聞いたり、教材文を読んだ感想を話し合ったりして、学習課題をつかむ。 学習課題 ペアで身の回りの物を問題にして、なぞなぞゲームをしよう	○問題の内容や出し方についての感想をもてるように、問題を例示する。	◇問題の内容や出し方について、感想を記述している。 <ノート③>
ふかめる	2 1 1	○ペアで、作る問題の内容を話し合う。 ○ペアで、問題の出し方を話し合う。 ○ペアで、問題の出し方を練習する。	○問題を作ることができるように、問題作りの際の視点として、「見た目(形、色、大きさ等)」と「働き(使い方、動き、場所等)」を提示する。 ○問題の出し方を決められるように、教師の作成した問題の3つのヒントの出し方の順番を複数例示する。 ○問題の内容や出し方の良し悪しを確かめられるように、他のペアと問題を出し合う際に用いるタブレットをペアに一台用意する。	◇「見た目」「働き」を基に、問題を記述している。 <学習プリント②> ◇ヒントの難易度を考え、問題の出し方を決めている。 <発言・学習プリント②> ◇問題の出し方の工夫を考え、アドバイスしている。 <発言②>
ふりかえる	1	○作ったクイズを出し合い、学習を振り返る。	○物の特徴を表す語句に気付けるよう、ヒントとなる言葉をメモする学習プリントを用意する。	◇問題の答えを考えて記述している。 <学習プリント①>
【備考】 ○問題の題材としては学校にあるものがよい。				

単元	35 よんで かんじたことを ききあおう (『ずうっと、ずっと、だいすきだよ』)			3月(8時間…C8)
目標	物語を読んで、互いの考えや感想を知るために、友達と感じたことを共有することができる。			
議題	物語『ずうっと、ずっと、だいすきだよ』を読み、感じたことを聞き合う活動(イ)			
評価 規準	(①知・技)身近なことを表す語句の量を増し、話の中で使うとともに、言葉には意味による語句のまとまりがあることに気付き、語彙を豊かにしている。((1)オ) (②思・判・表)「読むこと」において、文章を読んで感じたことや分かったことを友達と共有している。(C(1)カ) (③主体的態度)積極的に友達の考えや感想を知ろうとし、学習課題の解決に向けて、読んで感じたことを聞き合おうとしている。			
過程	時間	学習活動	指導上の留意点	評価項目<評価方法(観点)>※太字は「記録に残す評価」
つかむ	1	○家で飼っているペットとの関わりを聞き合ったり、『ずうっと、ずっと、だいすきだよ』を読んだりして、学習課題をつかむ。 学習課題 お話を読んで感じたことをみんなで聞き合おう	○互いの考えや感想を共有する学習に興味をもてるように、読んだ感想を出し合う際に、「いいな」「すきだな」「どうしてかな」の観点を提示する。	◇物語を読んだ感想を進んで発表したり、友達の感想を集中して聞いたりしている。<行動③>
ふかめる	5	○話題ごとに想像したことを話し合い、想像したことをまとめる。	○場面の様子について想像を広げられるように、「言ったこと」「したこと」「まわりの様子」という観点を提示する。 ○物語を読んで想像したことを共有できるように、ペアで1枚の本文シートを用意する。	◇「 したことを表す言葉 」「 言ったことを表す言葉 」「 まわりの様子 」を中心に、複数の叙述をつなげて、登場人物の行動についてより具体的に想像したことを発言したり記述したりしている。 <発言・本文シート①②③> ◇ペアの友達と互いに想像したことを伝え合っている。 <発言・本文シート②>
ふりかえる	1 1	○学習後の感想を書き、初発の感想との違いをまとめる。 ○まとめテストを行う。	○初発の感想との差異に気付けるように、つかむ過程の板書を提示する。	◇友達と考えを聞き合いながら想像したことのよさについて発言している。 <発言③> ◇6割以上の問題について、正答を出している。 <テスト①②>
【備考】 ○まとめのテストについては、裏面の言葉の学習の授業に応じて、実施の時期を決める。				

<言葉の学習>(『にて いる かん字』)				3月(3時間…知・技3)
目標	形が似ている漢字を使って文を作ることができる。			
評価 規準	(①知・技)第1学年に配当されている漢字を読み、漸次書き、文の中で使っている。((1)エ) (③主体的態度)漢字の形に注意し、これまでの学習を生かして楽しみながら文を書こうとしている。			
○似ている漢字に気を付けて書く。 ○教科書にある漢字を使って文を作る。				
○3学期の言語事項について、まとめのテストをする。				

単元	36 おもいでを かいて のこそう (『いいこと いっぱい, 一年生』)		3月 (16時間…B16)
目標	自分が伝えたいことを選んで文を書いたり, 事柄の順序に気を付けて思い出を文章で書き表したりすることができる。		
議題	経験したことを書く活動。(ア)…ふかめる1 一年間の思い出を言葉にしてかるたの読み札を書く活動。(ウ)…ふかめる2		
評価規準	(①知・技)平仮名や片仮名, 学習した漢字を正しく使っている。((1)ウ・エ) 助詞の使い方, 句点の打ち方, かぎの使い方, 主述の照応などに気を付けている。((1)ウ・カ) (②思・判・表)「書くこと」において, 一年間を振り返り, 印象に残っている出来事の中から題材を選んで文を書いている。(B(1)ア) 「書くこと」において, 経験したことやそのときに感じたことなどが伝わるように, 文章の内容を構成している。(B(1)イ) (③主体的態度)積極的に印象に残っている出来事を思い出して, 学習課題の解決に向けて, 文章を書いたり, かるたを作ったりしようとしている。		
過程	時間	学習活動	指導上の留意点
つかむ	1	○1年間の思い出を発表し合い, 学習課題をつかむ。 学習課題 思い出に残っている出来事を, 書いて残しておこう	○1年間の思い出を書き表すことに課題意識をもてるよう, 運動会やオリエンテーリング等の行事や普段の学校生活の様子を写真で提示する。
ふかめる1	1	○学習計画を立て, 作文に書く題材を考える。 学習計画例: ①何を書くか決める。②メモを作る。 ③書く順番を決めて並べる。④下書きをする。 ⑤間違いがないか確かめて読む。⑥清書をする。	○書きたいことを明確化できるように, 小学校に入ってから経験したことやその時の気持ちを付箋紙(ロイロノート上のカードでもよい)に書き出す機会を設定する。
	1	○書きたいこと(題材)を決め, 作文メモを作る。	○様子や気持ちを順序立てて構成することができるよう, 付箋紙を出来事の順に並べる機会を設定する。
	2	○原稿用紙の使い方を確認し, 下書きをする。	○会話文等を用いて様子を表現できるように, 原稿用紙におけるかぎ括弧の書き表し方等を提示する。
	2	○下書きを音読して見直し, 清書をする。	○文章を読み返す習慣を付けることができるよう, 推敲の際の視点「出来事の順序」「字の間違い」を提示する。
ふかめる2	2	○『いいこと いっぱい, 一年生』を参考にし, 1年間の思い出を振り返り, かるたになりそうな出来事を話し合い, 分担を決める。	○かるたに書く事柄を話し合うことができるように, 1年間の行事や学習の様子の写真を提示する。
	1	○1年間の思い出を基に, 短文作りをする。	○選んだ題材を短文にすることができるように, 「リズムのよさ」という観点を提示する。
	2	○できた短文を, 語と語のつながりやリズムに気を付けて見直し, 読み札に清書をする。	○リズムのよい短文に修正することができるように, 短文のモデルを複数例示する。
	2	○絵札を作り, かるたを完成させる。	○平仮名や片仮名, 漢字を正しく用いてかるたを作れるように, 学習した平仮名や片仮名, 漢字の一覧を提示する。
かふえりる	2	○自分たちで作ったかるたで楽しくかるた遊びをし, 学習を振り返る。	○題材を選んだり集めたりする必要性を再認識できるように, 「かるたを作る際に気を付けたこと」という視点を提示する。
			◇行事や普段の学校生活の様子の中から, 思い出として書き残したいことを発言している。 <発言③> ◇小学校に入ってから経験したことやその時の気持ちを付箋紙に記述している。 <付箋紙②> ◇出来事の順序に沿って付箋紙を並べている。 <学習プリント②> ◇原稿用紙におけるかぎ括弧の書き表し方のルールに則って文章を記述している。 <原稿用紙①> ◇出来事の順番に気を付けて書いたり, 言葉や表現を工夫したりしている。 <作文①②③> ◇かるたに書く事柄を記述している。 <学習プリント②> ◇選んだ事柄に関わる言葉を記述している。 <学習プリント②> ◇語と語のつながりやリズムに気を付けて短文を修正している。 <読み札②> ◇正しい平仮名や片仮名, 漢字を用いてかるたを完成させている。 <読み札①> ◇かるた作りの工夫として, 題材の選び方や集め方にふれた感想を記述している。<ノート③>

【備考】
○作文の文量は400字詰め原稿用紙1枚～1枚半(400～600字)程度とする。

国語科 1年

- 「」（かぎ）や、（点）などの原稿用紙の使い方についての指導を行うようにする。（200字詰の原稿用紙か400字詰の原稿用紙を用いるかは、学年部で相談の上、統一する。）
- 書写「1年生のまとめ」の第4時に扱う「1年生のおもい出」は、本単元で作成した作文を一部抜粋する形で、書写指導ができるとよい。
- 作成したかるたは、ラミネート加工すると保存や管理がしやすい。また、休み時間等で遊べるようにしたり、2年生に持ち上げたりしてもよい。